

福祉だより

ぬくもり

●発行/北六甲台地区社協●発行日/偶数月●編集/北六甲台地区広報部●配布エリア/北六甲台・上山口東

北六甲台 & 上山口東の住宅街

第103号
平成30年2月21日

西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長 日高 昭夫



平成最後の新年を迎え、平成という三十年間はどうな時代だったのかを振り返ってみました。

昭和の成長期の負の遺産

国際的には平成三年のソ連崩壊を端緒にグローバリズムと市場経済万能主義が世界を席巻し、各国で様々な歪みと格差社会をうみだしました。その反動が平成二十九年のアメリカンファーストを声高に主張するトランプ政権の誕生です。

国内では昭和末期から平成初期にかけての数年間、バブル経済が絶頂期を迎え、平成四年に破たんしました。その後「失

北六甲台地区の現状

地区社協は、平成七年に開発後十年余りのベッタウンの地域福祉を担

われた一〇年」を経て日本経済は今尚活力を取り戻せないまま格差社会等の歪みにもがいています。その意味で平成時代とは昭和の経済成長期の負の遺産処理に追われた時代ともいえます。

高齢化と人口減少社会に

他方で日本の高齢化と人口減少が加速化した時代でした。高齢化率は平成二年から平成二十八年にかけて十五%も加速化し、平成十九年には二十一%を超えて超高齢社会に突入しました。また平成二十七年の国勢調査で初めて人口減少が明らかになり、今後の加速化が必至です。

地区社協は、福祉ネットや有償ボランティアを立ち上げ、地域での困り事支援の基盤整備を図りました。昨年は「敬老お

成熟・共生社会の舵取り

北六甲台地区の直近五年の高齢化推移は別表の通りです。北六甲台の八・七%もの増加は団塊世代の比率の高さが要因です。人口減少の超高齢社会を迎えて成長から成熟への枠組みの見直しとインフラ（社会基盤）の整備が必要です。

北六甲台地区 5年間の高齢化推移							
区分	2013年			2018年			増減
	全人口	高齢者	比率	全人口	高齢者	比率	
北六甲台	5,687	1,256	22.1	5,424	1,672	30.8	8.7
上山口東	2,492	272	10.9	2,711	327	12.1	1.1
山口	17,472	3,644	20.9	16,870	4,490	26.6	5.8
西宮(千人)	481	99	20.7	484	114	23.5	2.8
全国(万人)	12,750	3,098	24.3	12,770	3,479	27.2	2.9

祝い訪問」を実施し見守り活動に着手しました。また福祉ネットを通じて認知症カフェ開設の支援や認知症サポーターべんり帳北六甲台地区版発行を進めています。

成熟社会では個人主義やミイイズムでなく地域ぐるみでの「共生」が欠かせません。地域包括ケアという難題に向けて成熟・共生社会の舵取りが問われています。

成熟・共生社会の舵取り

年頭所感

会長 日高昭夫



十二月十二日（水）、北六甲台自治会館で行われました「ふれあい喫茶」は、Rグレイス九名によるコーラスがあり、年末にふさわしいクリスマスソングで会場の雰囲気盛り上げて頂きました。当日の参加者は五十名以上で、満席になるほどの盛況ぶりでした。

中島みゆきの「麦の唄」や美空ひばりの「川の流れるように」を会場の皆さんと合唱し、美味しいコーヒーとお菓子とともに、満足感に浸りました。



十二月十九日（水）、上山口東自治会館の「ふれあい喫茶」もクリスマスコンサートを開催。こちらは、特別養護老人ホーム「セントボーリア愛の郷」の音楽療法士二名の音楽ユニット「キヤルムクラン」のギター演奏で、素晴らしい歌声とギターの音色にしばし聞き入っていました。

歌謡曲や冬の抒情歌メドレーを参加者で合唱し、会場が盛り上がりしました。（広報部・小出）

十二月十七日（月）安心プラザA室のいつもの「青い空」に、福寿会「ささゆり」大正琴さんに演奏依頼をして開催しました。

サイモン＆ガーファンクルの「コンドルは飛んでいく」や童謡など二十曲ほどを演奏していただいたあと、OBのMさん扮するサンタクロースが、大正琴のシングルベルのメロディーに合わせて登場！大変盛り上がりしました。プレゼントのお菓子はKさんに手作りしていただいたもので、昨年に続いてのプレゼントに感激しました。

皆、サンタからのプレゼントに満足そうな笑顔で、今年最後の「青い空」を楽しんでいました。（障がい者支援部 井上）

十二月二十一日（金）、子育てひろば「友だちつくるう」は、一年で一番大きなイベントである「クリスマス会」がありました。この日、初めて来てくれた子どもたちやサンタさんのコスプレの子どもなど、総勢三十名の親子が参加して大盛況。今年は、スタッフ手作りの「軍手シアター」を初お披露目し、カラー軍手で出来たかわいいクレヨンやどんぐりの人形が歌に合わせて踊りました。最後にクリスマス之歌をみんなで歌っているとき、サンタクロースが登場！優しいサンタさんが一人ひとりにプレゼントのお菓子を手渡してくれました。「サンタさん、来年もまた来てね！」（子育て支援部 鈴木）

福祉講座

開催日：3月17日（日）
時間：午後1時30分～3時30分
会場：北六甲台コミュニティーセンターA室
内容：ミュージックセラピー体験

お知らせ

山口ふくしフォーラム

開催日：3月6日（水）
時間：午後1時30分～3時30分
会場：山口ホール
内容：地域活動発表&交流懇談会



今年も七十五歳以上の方をお迎えして、一月十八日（金）、「ふれあい交流会」をサンパレス六甲で開催しました。より多くの方に、また今まで参加されていなかった方にも参加していただきたく、今年度は、社協の役員、協力員、登録ボランティアの人たちの力を借りて、北六甲台、上山口東の全戸に案内状を配布する等努力いたしました。が、昨年より少なく百名ほどの参加でした。



今年も、関西学院大学甲山落語研究会の学生による落語を三席、和朗亭宵笑（わろうていよいしゅう）さんの「猫の皿」と「最終試験」、櫻鶯亭楼聡（おうおうていろうちう）



演目の中の「猫の皿」は、旅人が旅先で立ち寄った茶店で、猫が食べている餌の皿が名品の「絵高麗の梅鉢」であることに気づき、店主を言いくるめて猫を三両で買い、皿



さんの「鉄砲勇助」を楽しんでいただきました。



も一緒に持っていこうとするが、実は店主の方が一枚上手で旅人はまんまと騙されるというお話し。内容をご存知の方も多く、笑いがあちらこちらで起きていました。参加者からみればお孫さんのような学生さんが一生懸命に断をされている姿に、何とかこちらも笑うタイミングを逃さないようにと懸命に聞いておりました。笑いでお腹も空いたところで、サンパレス六甲ご自慢の天ぷらやローストビーフなどが入った豪華な会席弁当をいただきましたながら、各テーブル



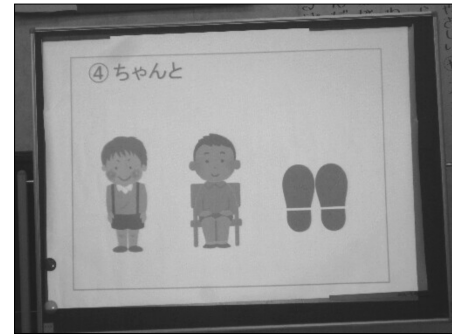
での会話も弾んでおりました。各テーブルで、昨年の敬老の日には社協が行いました「敬老お祝い訪問事業」などについての感想をお伺いしました。いろいろなご意見を頂戴しましたので、参考に致します。こうして二時間の「ふれあい交流会」は楽しく終わり、「もう少しお話しがしたかったなあ」と思いました。お元気で、来年もご参加のほど、よろしくお願い致します。また、新しい方も是非ご参加ください。ありがとうございました。

知的障がい疑似体験研修会に参加して

一月六日（水）安心プラザにおいて、知的障がい者と保護者の会である一般社団法人「西宮市手をつなぐ育成会」の方を講師にお招きし、ボランティア研修会が行われました。



指名を受けた私は部屋の外で待機し、会場内の準備完了の合図で入室。いよいよ疑似体験の始まりです。「ワワワ」という言葉だけで何かして欲しいことを伝えられるのですが、何を要求されているのかさっぱり分かりません。そこで、疑似体験を通して、知的障がいを持つ



方の特性や対応の仕方について学びました。
（一）目で見て分かるものがあれば理解しやすいので、「視覚支援」を用いると良い

（二）講師五名がマスクをして一斉に喋り出しますが、この疑似体験は、「知的障がいのある人は、一度にたくさんいろいろなことを言われると理解できない」ということを、講師の皆さんが私たちに理解してもらおうとされたのだと思います。「ゆっくりひとつずつ話してあげてほしい」とい



（四）小さな穴から一点を見つめると、そばで何が起こったかが全く判らない

うことではないでしょうか。
（三）抽象的な言葉を絵にする難しさを体験することから、「抽象的な事柄は理解しにくいので具体的に示すことが大切」ということを判って欲しい」ということではないかと理解しました。
（一）項に書かれていることは（三）項に関連して、例えば「水をコップに少し入れてください」という言い方ではなく、「水をここまで入れてください」と具体的に示すと判り易いということではないかと思えます。

という疑似体験から、「興味のあるものに集中すると他が見えなくなる」という知的障がいの特色を理解しました。これは、自分の仕事を丁寧に熱心に行けることができるという長所でもある
（五）時間を区切り、急かされるというライラするので、ゆっくり待つてあげる疑似体験を交えながら、障がい者は一人ひとり特性があり、その対応には、ちよっとした工夫が必要であることを学びました。
（広報部 小出）

「よいきみおやじ会」のパワーはすごい！



「よいきみおやじ会」の今後の課題は、このパワーをいかに実践していくかです。
（竹田 勝）

当日は、登録会員の約半数以上の二十二名が集まりました。一人ずつ近況報告や地域活動の情報提供、意見交換などで、あっと言う間の二時間半が過ぎてしまいました。現役組、退職組、高齢者。それぞれの立場からの個性豊かな人生体験談は、「この地域を何とか良くしたい」という思いとパワーでいっぱいでした。オヤジ会の今後の課題は、このパワーをいかに実践していくかです。